

筑波大学 主催 第二回 日独通訳セミナー 報告書

- 1) 報告者氏名 宇野将史 (ドイツ・ハイデルベルク大学 会議通訳 修士課程 修了)
- 2) セミナー名 日独通訳合宿 2012
- 3) 受講場所 Heinrich Pesch Haus • Katholische Akademie Rhein-Neckar
Frankenthaler Str. 22 | 67059 Ludwigshafen, Germany
- 4) 受講期間 2012年10月6日 (土) 13:30 ~ 2012年10月8日 (月) 12:00

総合責任者 相澤啓一 筑波大学・大学院 人文社会科学研究科・教授
筑波大学 ボン事務所 運営委員

- 5) 参加者人数 13名

6) セミナーの内容

1. 参加者各自が事前に指定されたテーマ (エネルギー/少子高齢化) のどちらか一つを選び、準備してきたスピーチを、ドイツ語・日本語いずれか任意の言語で発表。
2. 毎回2名を参加者の中から指名し、チームを組んで交代で逐次通訳。
3. 通訳内容やパフォーマンスに関する参加者からのコメント。

7) 第2回 通訳セミナーの報告

昨年に引き続き、早秋のこの時期に第二回目となる通訳者のためのセミナー合宿が開催された。全体的なプログラムや趣旨は昨年と同様であるが、3年前に開講したハイデルベルク大学の日独会議通訳修士課程からは、ついに卒業生が出るようになった。中にはすでに会議通訳の第一線で活躍している者もいる。彼らは皆、その高度な言語能力と経験を活かして、日本とドイツの各地へ羽ばたいてゆき、様々な分野で活躍している。

日本をベースに活動している日独会議通訳者たちの間では、職業人としての結束が固く、さらに個人的な信頼関係も厚いことでつとに知られるが、2009年以来ハイデルベルクをベースに新たな会議通訳者たちのつながりもうまれ、そこでは日本でこれまでに培われてきたネットワークや人材とはまた異なる背景から学生や講師陣が集っているにも関わらず、全く同様の暖かい絆によって結ばれている。今後は日独両国を跨いで、これまでに培われてきた会議通訳者どうしの様々な知的交流がさらに広がってゆくことであろう。

その意味で、この合宿は会を重ねるごとに、専門教育と実践経験を積んだ会議通訳者の参加が広がってゆく — 同時にそれは、切磋琢磨する上でも自ずと要求水準が高くなってゆく、ということでもある — だけにとどまらず、通訳教育を大学で集中的に受けている現役の学生から、すでに実地で何らかの形で通訳という営みに関わっている社会人、さらに将来的に通訳の仕事や勉強に関心を抱いている人まで、様々な背景を持った者同士の情報交換や交流の場となる唯一無二の機会であり、その重要性は、今後ますます大きなものになってゆくものと思われる。参加者の一人として、本報告者も筑波大学の今回のご支援・ご協力に際し、この場をお借りして深く感謝の意を述べる次第である。

7.-1 セミナーの概要

今年は「エネルギー」「少子高齢化」が大枠を決めるテーマとなり、この合宿の開催が決まった段階で、参加者自身が各人どちらかひとつのテーマを選び、任意の言語で、スピーチとレジュメを準備し、参加者用に用意されたメーリング・リストを通じて、事前に提出することから始まった。ほとんどの参加者は自らの母語で発表を行い、さらにその中でテーマのよく似た発表をピックアップし、一つのセッションとして連続して行うことで、ひとりが日本語で講演を行ったのに引き続き、別の者がドイツ語で講演を行う、といった具合に、それぞれの言語への訳出が2日間の中でバランスよく配置され、効果的な練習が可能となった。

公式の統計データなどをもとに、電力需給などエネルギー政策、あるいは今後の少子高齢化に関する見通しや政策などについてまとめたスピーチから、個人的な体験に基づいたもの、自らの熱い思いを語ってくれたもの、通訳者泣かせの細かいデータや数値を次々と繰り出すものや、ウィットに富んだ、聴き手を思わず魅了してしまうようなスピーチ、

等々…、プレゼンの仕方や内容も実に様々で、非常に臨場感のある格好の練習材料が揃うこととなった。

そのため、スピーチ直前に毎回指名される通訳者 2 名は、常に緊張を強いられることになったが、まさにそのような状況下にあっても、常に冷静さを保ち、臨機応変にスピーチの内容や会議の進行に対応しながら、異言語間でのコミュニケーションを円滑に図ることこそが通訳者の能力として欠かせないものであり、実際に一緒に仕事をするようになる同僚通訳者（一般にはあまり認知されていないことだが、会議の進行や拘束時間によっては、逐次通訳でも 2 名以上の通訳者を手配する必要がある）や、他ならぬスピーチ話者本人とどのように連携をしてゆくのかといった、通訳内容の正確性や専門用語・背景知識の理解に重きが置かれる大学での日々の訓練の中では見過ごされがちな、しかしながら実践の場では通訳内容と同等、あるいはむしろそれ以上に重要な側面にも目が向けられた。

7. -2 今後のセミナーのあり方について

次回以降の課題としては、合宿の内容と時期が挙げられた。まず 10 月はじめという時期は、ハイデルベルクの卒業試験直前にあたることに加え、それ以外の学生たちも郷里に帰省中であったり、とくにドイツ在住で普段仕事をしている人達の中には、まだ休暇中の人もいたり、必ずしも好都合なものとはいえない。より多くの人達が集まりやすい時期が検討されるとともに、来年以降は同時通訳のセミナー合宿も視野に入ってきた。すなわち、今回のような形での逐次通訳のセミナーと同時通訳のセミナーの年 2 回という、現役の通訳者たちにとっては、まさに垂涎物のプログラムが期待されることになる。

通訳練習だけでも毎学期に週 6 コマ、同時通訳ブースを備えた会議場が 3 つも完備され、しかも外部のゲストスピーカーを招いての本格的な逐次・同時通訳訓練用の模擬講演が毎週開催されるなど、これ以上望むべくもない理想的な環境がハイデルベルクで用意されているとはいえ、わずか 2 年のトレーニングと修士号の取得だけで終わりというわけではなく、通訳者としてその後も順調にキャリアを積んでいくためには、まさに野に放たれてから、いかに研鑽を積んでゆくかが勝負であるといっても過言ではない。その意味でも、このようなセミナー合宿が定期的で開催されることは、訓練を終えたプロの通訳者たちにとって、かけがえのない機会であるといえる。合宿の開催が軌道に乗り、毎年このような機会が定期的の実現することを切に願って、2012 年セミナー合宿の報告とする。